

呼吸器健診の重要性を説く

和歌山病院市民公開講座

独立行政法人国立病院機構和歌山病院は20日、美浜町地域福祉センターで、第10回市民公開講座を開いた。

同病院長・南方良章氏が「呼吸器健診の重要性」これからの健康な長寿社会を目指して」をテーマに講演。南方氏は、肺結核や肺がん、喫煙により肺が壊れる病気・COPDなど肺疾患の種類と特徴、健診の方法、罹患者数の推移などを説明した。

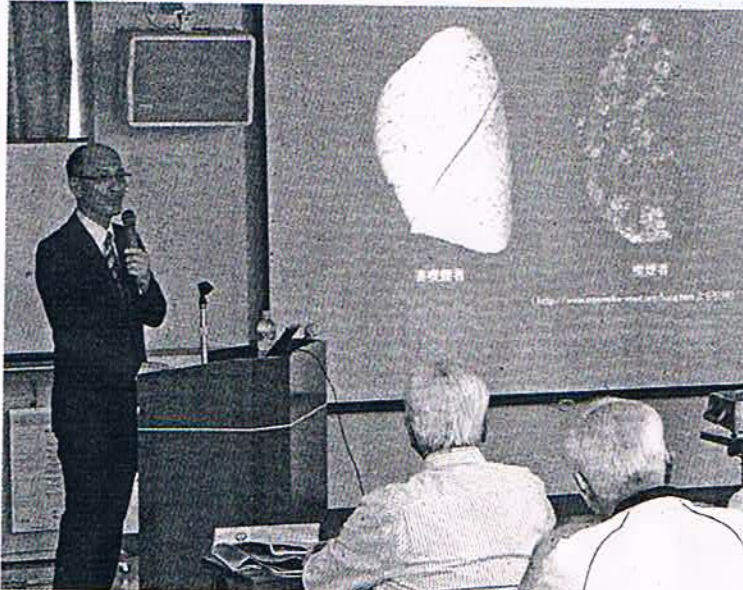
肺がんは、臓器別にみたがんの死亡率で近年、胃がんを抜いて首位となるなか、和歌山県の肺がん死亡率は全国に比較して極めて高い状況にあり「早く見つけて早く治さなければいけません」と南方氏。肺がん、COPDの喫煙との関連性を解説し、肺の健康度の分かりやすい指標・肺年齢に

についても説明した。

南方氏は胸部レントゲン検査だけでは呼吸器疾患の早期発見は難しい例をあげ、被ばく量を抑えた低線量CTでの健診を推奨。喫煙者には喀痰検査も勧め

「積極的に呼吸器健診を受け、早期発見・早期治療をすることが重要」と話した。

臨床検査技師長・河野明氏は「肺年齢について」をテーマに講演。会場には肺年齢測定と相談のコーナーも設けられ、参加者らは肺の健康について改めて考え



肺疾患について話す南方病院長